

令和 2 年 5 月 2 7 日

京 都 市

令和元年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

令和 2 年 4 月 2 2 日開催の第 2 0 回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、令和元年に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などに基づき、各委員から令和元年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、課題に対する意見は次のとおりであり、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

第 2 0 回京都市ごみ収集業務評価推進会議の評価及び意見

意見 1：ごみ収集業務を通じた市民サービスの向上

京都市では、徹底した業務の効率化を図るため、ごみ収集業務について、順次委託化を進めることとし、令和 6 年の委託化率 7 割を目標に掲げている。

これまでの間、各まち美化事務所やまち美化推進課からの指導監督により、委託化においても市民サービスの質の維持に努めており、市民アンケート調査の結果でも直営と同様、高い満足度が維持されている。

今後も高い市民満足度を維持・拡充するよう、委託業者への指導監督をしっかりと行うことはもとより、より細やかな指導体制を設け、安心・安全なごみ収集業務の確保・向上に努めること。

意見 2：安全運転・丁寧な収集作業に向けた取組

市民アンケート調査結果では高い評価が維持されているものの、一方で厳しいご意見もいただいている。収集車は通常の車両よりも大きいのが、狭い路地も走らざるを得ず、市民の目からは圧迫感があるということを改めて念頭に置き、職員研修や振り返り等を通じて、交通事故件数の削減のみならず、市民目線を意識した安全運転の向上につながる取組を進めること。

意見 3：ごみ分別への取組支援

雑がみは、燃やすごみの約 1 割を占めており、雑がみの分別・リサイクルを進めることで、ごみ量の高い削減効果が期待できる。

市民アンケート調査では、13%以上の方が燃やすごみとして出していると回答していることから、更なる周知・啓発に取り組むとともに、雑がみも含めた資源物の排出機会の拡大など市民が分別に取り組むやすい仕組みを検討すること。

また、使い捨てプラスチックごみの発生抑制にも取り組むこと。

意見４：ごみ減量の推進

食品ロスは、燃やすごみの１割以上を占めており、食品ロスの削減を進めることで、ごみ量の高い削減効果が期待できる。

食品ロスの削減については、全食品ロス削減推進法が制定されるなど全国的な課題として市民の認知度はさらに高まっており、市民アンケート調査でも削減への意識は高い結果となった。これを好機として飲食店や販売店等との連携など取組を更に進めること。

また、同様に市民の意識が高い、プラスチックごみの発生抑制・リサイクルについても、ペットボトル使用抑制・マイボトル使用拡大に向けた給水スポット拡大など積極的に取り組むこと。

あわせて、プラスチック製容器包装について、プラスチック製品との分別がわかりにくいとの意見もあることから、プラスチック製品が混同して排出されないよう、周知・啓発に取り組むこと。

意見５：新型コロナウイルス感染症感染拡大時における対応

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響のある中、市民の衛生的かつ安定的な生活の確保のため不可欠な行政サービスとして、家庭ごみの収集業務に尽力されていることに感謝する。

引き続き、感染防止対策を講じるなど、必要な措置を行いながら、収集体制を維持できるよう努めること。